



# 赤城山(県立赤城公園)の活性化に向けて

群馬県 環境森林部 自然環境課

## 1. 赤城山って県立公園？

県立赤城公園は、昭和天皇の赤城山行幸を記念し、昭和10年に開設された1,290ヘクタールの県立公園です。【図1】東京圏から約2時間(前橋市街地から約1時間)のアクセスに位置し、日本百名山である黒檜山を主とする山々、大沼・小沼・覚満淵の湖沼など、豊かな自然環境を有しています。グリーンシーズンには登山・サイクリング・ランニングや市街地からマイナス10℃の避暑地でのキャンプ、ホワイトシーズンには氷上のワカサギ釣りなど、一年を通して非日常を味わえる楽しみがあります。また、初夏のツツジや秋の紅葉が観光のハイシーズンとなります。

公園の管理形態は当課の直営管理で行っており、各施設の運営・維持管理を地元自治会や関係団体へ業務委託しています。

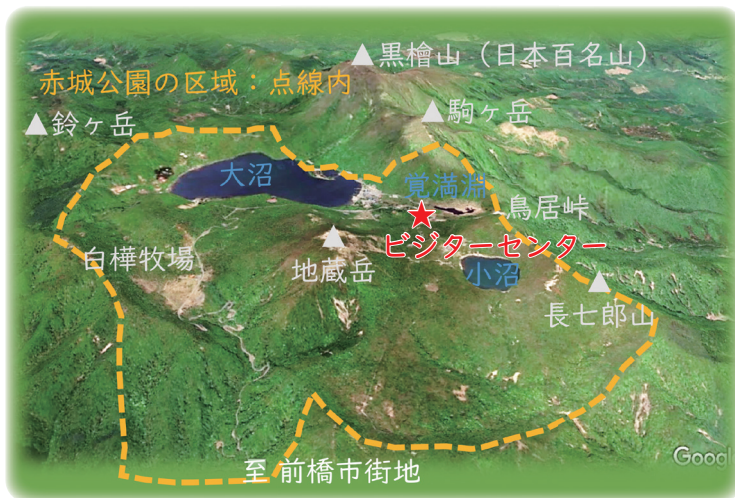


図1：県立赤城公園の区域図と主要な名所 (図の引用:Google Earth)



表1：県立赤城公園の利用者数と消費額(過去5年間)

## 2. 現状と課題

豊かな自然環境と一年を通じた楽しみにより、公園利用者数は昭和から平成初期にかけて年間100万人を超えていましたが、現在では50万人まで半減している現状です。【表1】減少の大きな要因として、東日本大震災の放射性セシウム汚染によるワカサギの出荷自粛(2016年まで)、さらに新型コロナ感染症対策のための外出自粛などの影響が大きく、地元経済はかなり疲弊しています。さらに、地元事業者の高齢化や後継者不足によるマンパワー不足も重なり、新たな担い手の確保が急務となっています。一方、公園施設も整備から50年以上経過したものが多く、また利用されていない県有施設の老朽化・荒廃化が進んでおり、県有施設の必要性の再確認と維持管理財源の確保も課題となっています。

## 3. 実現したい未来

### 「官民共創による自立性のある持続可能な公園管理・運営」

前述したように、赤城公園では持続していくための「マンパワー」及び「財源」が不足している状況です。よって、新たな取り組みにより収入と支出の改善を図り、自立性のある持続可能な公園管理・運営を目指します。【表2】そのためには、赤城公園の豊かな自然環境を保全・保護の観点に基づき、最大限利活用することでポテンシャルを最大限引き出します。また、赤城公園でしか味わうことのできない、アクティビティや地域ブランディングを通して「新たな地域顧客」を増やします。これらのことを達成するには行政だけではできないため、官民共創による「民間プレイヤー」を、新たな担い手として募集していきます。

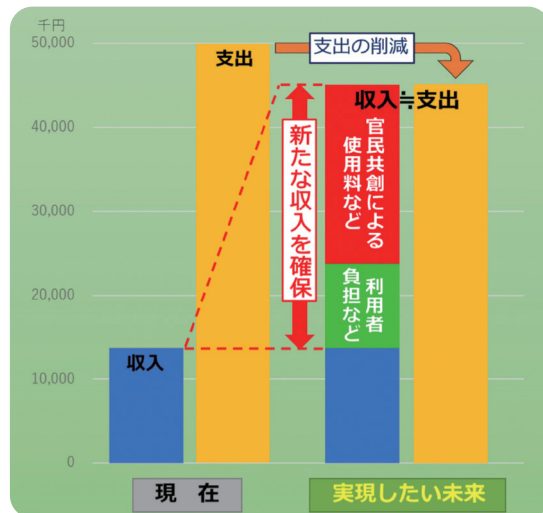


表2：収入と支出の改善目標イメージ



## 4. 活性化に向けた新たな取り組み

### (1) 赤城公園ビジターセンターの食堂スペースを活用したトライアル・サウンディング

令和3年3月に、群馬県官民連携まちづくりプロジェクトチームが作成した「官民連携まちづくり基本方針」「道路・公園・河川(河原)・公共施設の利用手続きガイド」により、群馬県として初めてとなるトライアル・サウンディングを実施しました。トライアル・サウンディングで採用した提案内容は以下のとおりです。

#### 【提案内容】

- ◆事業者：(株) エーアンドバイ企画  
代表取締役 林 智浩 氏
- ◆事業期間：令和3年6月1日(火)  
～令和4年3月31日(木)
- ◆事業名：赤城山資源活用プロジェクト
- ◆事業内容：①カフェ、アウトドア雑貨の販売  
②地元名産を活用した商品開発
- ◆オープン：令和3年7月17日(土)
- ◆おすすめのメニュー  
濃厚なうま味がありながらさっぱりと食べられる「福豚を使ったソーセージに、辛みがないチリビーンズ風のソースをかけた「気まぐれソーセージと豆煮込みのガレット」(1,300円)  
前橋のロブソンコーヒーが赤城山頂をイメージしてブレンドした「赤城山ブレンド」(400円)



写真1：リニューアルしてオープンした食堂スペース



tsulunos動画は、右のQRコードからご確認ください。

「HUTTE HAYASHI CAFE(ヒュッテハヤシカフェ)～県立赤城公園ビジターセンターにカフェがオープンしました～ | 自然環境課 | 群馬県」

オープン直後から新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言による外出自粛や天候不良により厳しい状況でしたが、いろいろなメディアに取り上げられることで、このカフェを目当てに赤城公園を訪れるお客さんも増えています。

### (2) 官民共創ピッチ「県立公園における官民共創の民間プレイヤー」

令和3年9月28日(火)14～15時に、赤城公園ビジターセンターにて官民共創ピッチを開催しました。民間事業者・関係団体・地元事業者・行政担当者など約50名が、本会場だけでなくサテライト会場NETSUGEN、ZOOM配信でご参加いただきました。民間プレイヤーの募集にあたり、トライアル・サウンディングで出店いただいた林氏のゲストトークも交え、今までにない官民共創ピッチの場を創出し、大いに盛り上がりました。

官民共創ピッチ#2の詳細は、下のQRコードからご確認ください。



写真2：官民共創ピッチの状況(左:会場の様子, 右:ゲストトークの様子)

## 5. 活性化に向けて

現在、「県立赤城公園の活性化に向けた基本構想」の策定作業を進めています。策定にあたり、赤城公園の持っている自然環境のポテンシャルを最大限引き出すためにアウトドア活動に知識と経験を有する民間事業者の協力が必須であることから、委託する事業者を公募型プロポーザル方式により募集しました。その結果、株式会社スノーピーク地方創生コンサルティングに決定しました。日本で最先端に行くアウトドアメーカーの知見を活かし、新たな価値を生み出すコンサルティングの提供を受け、県立赤城公園ならではの魅力を最大限に引き出す基本構想を策定していきます。